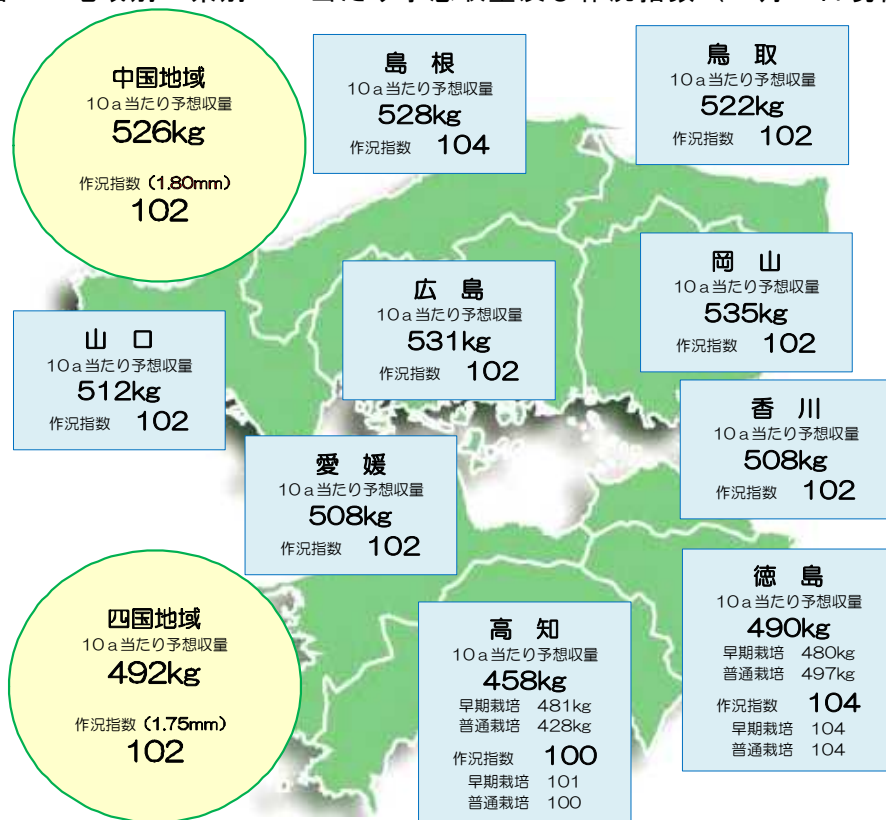


**平成28年産水稻の作付面積及び予想収穫量  
 (10月15日現在 中国四国地域)**

**【調査結果の概要】**

- 1 平成28年産水稻の作付面積（子実用）は15万6,900haで、前年産に比べ3,400ha（2%）減少しました。また、主食用作付見込面積は15万2,600haと見込まれます。
- 2 10月15日現在における10a当たり予想収量は515kgで、作柄の悪かった前年産に比べ24kgの増加が見込まれます。  
 また、農家等が使用しているふるい目幅（中国地域1.80mm、四国地域1.75mm）ベースの作況指数は、中国地域、四国地域ともに102（やや良）と見込まれます。
- 3 予想収穫量（子実用）は80万8,400tで、前年産に比べ2万1,700t（3%）の増加が見込まれます。また、主食用の予想収穫量は78万7,200tと見込まれます。

図1 地域別・県別10a当たり予想収量及び作況指数（10月15日現在）



本資料は、中国四国農政局ホームページ中の「統計情報」でご覧いただけます。  
 【 <http://www.maff.go.jp/chushi/info/index.html> 】

◎ 用語の解説及び特記事項

- ・ 作付面積（子実用）とは、青刈り面積（飼料用米等を含む。）を除いた面積です。また、主食用作付見込面積とは、水稲作付面積（青刈り面積を含む。）から、生産数量目標の外数として取り扱う米穀等（備蓄米、加工用米、新規需要米等）の作付面積（平成28年10月15日現在）を除いた面積（見込み）です。
- ・ この調査は、収穫を終えた地域では刈取り実測により行いましたが、一部収穫を終えていない地域ではもみ数、登熟状況等を実測し、その後の登熟については気象が平年並みに推移するものとして推定する方法により行いました。したがって、今後の気象条件により作柄は変動することがあります。
- ・ 10 a 当たり予想収量及び予想収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量です。
- ・ 作況指数は、平成27年産からは各全国農業地域に所在する農家等が使用しているふるい目幅について、その目幅が大きいものから数えて9割を占めるまでのふるいの目幅（中国は1.80mm、四国は1.75mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値です。なお、平成26年産までは1.70mmのふるい目幅以上に選別された玄米を基に算出した数値です。
- ・ 本資料における平年比較の表示区分は、「良・多い」が対平年比106%以上、「やや良・やや多い」が105~102%、「平年並み」が101~99%、「やや不良・やや少ない」が98~95%、「不良・少ない」が94%以下に相当します。
- ・ 早期栽培とは、8月中旬頃までに刈り取りがおおむね終了する栽培方法で、その面積がおおむね3割以上を占める県（中国四国地域では徳島県及び高知県が該当します。）では早期栽培として別に集計しています。

◎ 水稲調査結果の主な利活用

- ・ 主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律（平成6年法律第113号）に基づき毎年定めることとされている米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針及び米穀の需給見通しのための資料
- ・ 食料・農業・農村基本計画における生産努力目標の策定及び達成状況検証のための資料
- ・ 米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）の交付金算定のための資料
- ・ 農業災害補償法（昭和22年法律第185号）に基づく農作物共済事業における共済基準収穫量算定のための資料

## 【調査結果】

### 1 作付面積

平成28年産水稲の作付面積（子実用）は15万6,900haで、飼料用米への転換等により、前年産に比べ3,400ha（2%）減少しました。

また、水稲の作付面積（青刈り面積を含む。）から、生産数量目標の外数として取り扱う米穀等（備蓄米、加工用米、新規需要米等）の作付面積を除いた主食用作付見込面積は15万2,600haと見込まれます。

### 2 作柄概況

中国四国地域では、5月は天候に恵まれ高温多照で推移したものの、6月は曇雨天が多く、日照時間が平年を下回りました。7月から8月にかけてはおおむね天候に恵まれ、高温多照で推移しました。9月は曇雨天が多く、日照不足となったものの、10月に入り天候は回復しています。

穂数は、6月の天候不順により「平年並み」ないし「少ない」となりました。一方、1穂当たりもみ数は、穂数が少ない補償作用等でおおむね「やや多い」となりました。この結果、全もみ数は「やや多い」ないし「やや少ない」となりました。

登熟は、7月から8月にかけておおむね天候に恵まれたことから、9月に

日照不足となったものの、おおむね「やや良」と見込まれます。

以上のことから、10 a 当たり予想収量は515kgとなり、作柄の悪かった前年産に比べ24kgの増加が見込まれます。地域別にみると、中国地域が526kg（前年産に比べ23kg増加）、四国地域が492kg（同26kg増加）と見込まれます。

また、農家等が使用しているふるい目幅（中国地域1.80mm、四国地域1.75mm）以上に選別された玄米を基に算出した作況指数は、中国地域、四国地域ともに102（やや良）と見込まれます。

### 3 予想収穫量

以上の結果、予想収穫量（子実用）は80万8,400 tとなり、作付面積は減少したものの、10 a 当たり予想収量が前年産を大きく上回ることから、前年産に比べ2万1,700 t（3%）の増加が見込まれます。また、主食用作付見込面積に10 a 当たり予想収量を乗じた主食用の予想収穫量は78万7,200 t と見込まれます。

## 【統計表】

表1 平成28年産水稻の作付面積及び予想収穫量（地域別及び県別・10月15日現在）

区 分	作付面積（子実用）			10 a 当たり 予想収量 ②	（参考）農家等が使用している ふるい目幅で選別			予想収穫量（子実用）			参 考	
	実数 ①	前年産との比較			10 a 当たり 予想収量 ③	10 a 当たり 平年収量 ④	作況指数 ⑤=③/④	実数 ⑥=①×②	前年産との比較		主食用作付 見込面積 ⑦	予想収穫量 （主食用） ⑧=⑦×②
		対差	対比						対差	対比		
	ha	ha	%	kg	kg	kg	t	t	%	ha	t	
中国地域	106,000	△2,100	98	526	517	506	102	557,900	14,000	103	102,200	538,500
鳥 取	12,700	△ 200	98	522	515	504	102	66,300	300	100	12,500	65,300
島 根	17,700	△ 200	99	528	521	500	104	93,500	3,500	104	17,300	91,300
岡 山	30,400	△ 600	98	535	524	515	102	162,600	6,000	104	29,200	156,200
広 島	24,100	△ 600	98	531	523	512	102	128,000	2,800	102	23,400	124,300
山 口	21,000	△ 600	97	512	502	492	102	107,500	1,400	101	19,800	101,400
四国地域	50,900	△1,200	98	492	488	479	102	250,500	7,700	103	50,500	248,700
徳 島	11,700	△ 200	98	490	487	469	104	57,300	2,900	105	11,500	56,400
早期栽培	4,470	△ 110	98	480	478	459	104	21,500	900	104	...	...
普通栽培	7,180	△ 160	98	497	494	475	104	35,700	1,900	106	...	...
香 川	13,200	△ 400	97	508	504	493	102	67,100	3,200	105	13,200	67,100
愛 媛	14,200	△ 400	97	508	501	493	102	72,100	900	101	14,200	72,100
高 知	11,800	△ 200	98	458	456	454	100	54,000	700	101	11,600	53,100
早期栽培	6,580	△ 170	97	481	479	476	101	31,600	400	101	...	...
普通栽培	5,180	△ 110	98	428	425	427	100	22,200	0	100	...	...

- 注：1 （参考）の農家等が使用しているふるい目幅で選別された③10 a 当たり予想収量、④10 a 当たり平年収量及び⑤作況指数については、各全国農業地域に所在する農家等が使用しているふるい目幅について、その目幅が大きいものから数えて9割を占めるまでのふるいの目幅（中国は1.80mm、四国は1.75mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値です。
- 2 徳島県及び高知県の早期・普通期別の主食用作付見込面積は、作期別に備蓄米、加工用米、新規需要米等の面積を把握していないことから「…」で示しています。
- 3 作付面積及び予想収穫量については各県の積み上げ値であるため、表頭の計算は一致しない場合があります。（P.10 8(3)参照）
- 4 「△」は、減少を示します。
- 5 注書きについては、以下の表において同じです。

表2 平成28年産水稻の作柄概況（10月15日現在）

区 分	平 年 比 較			
	穂数の多少	1 穂 当 た り も み 数 の 多 少	全 も み 数 の 多 少	登熟の良否
鳥 取	少ない	やや多い	やや少ない	やや良
島 根	やや少ない	やや多い	平年並み	やや良
岡 山	やや少ない	やや多い	やや少ない	やや良
広 島	少ない	やや多い	平年並み	やや良
山 口	やや少ない	やや多い	平年並み	やや良
徳 島 早期栽培	平年並み	やや多い	やや多い	やや良
普通栽培	やや少ない	多い	やや多い	やや良
香 川	平年並み	平年並み	平年並み	やや良
愛 媛	平年並み	やや多い	やや多い	やや不良
高 知 早期栽培	やや少ない	やや多い	やや少ない	やや良
普通栽培	やや少ない	やや多い	やや少ない	やや良

表3 平成28年産水稻の刈取期及び刈取済面積割合（10月15日現在）

区 分	刈 取 期					刈取済面積割合	
	始 期	最盛期	終 期	最盛期の比較		%	対平年差
				対平年差	対前年差		
	月 日	月 日	月 日			%	%
鳥 取	9. 9	9.24	10.14	並み	4日早	96	△ 1
島 根	8.27	9.18	10.13	2日早	4日早	98	△ 1
岡 山	9. 8	10. 6	…	1日早	5日早	65	1
広 島	9. 4	9.27	…	1日遅	3日早	93	△ 3
山 口	9. 5	9.25	…	並み	2日早	94	△ 1
徳 島 早期栽培	8. 9	8.20	8.31	4日早	2日早	100	0
普通栽培	8.23	9. 7	10. 4	4日早	5日早	100	2
香 川	8.23	9.30	…	2日早	3日早	90	4
愛 媛	8.20	9.21	…	3日早	6日早	90	△ 2
高 知 早期栽培	7.28	8. 7	8.21	7日早	2日早	100	0
普通栽培	9.24	10.10	…	4日遅	2日遅	87	△ 4

注：刈取期の始期、最盛期、終期とは、刈取済面積割合がそれぞれ5%、50%、95%に達した期日です。

表4 平成28年産水稻作況標本筆の10a 当たり玄米重の分布状況  
(中国地域・四国地域、10月15日現在)

中国地域									
	計	100kg未満	100～ 200	200～ 300	300～ 400	400～ 500	500～ 600	600～ 700	700kg以上
筆数割合	100.0	—	0.5	0.4	6.4	25.3	44.5	21.0	1.9
前年値	100.0	—	0.2	1.1	7.6	33.0	43.9	12.6	1.6
対前年差	0.0	—	0.3	△ 0.7	△ 1.2	△ 7.7	0.6	8.4	0.3

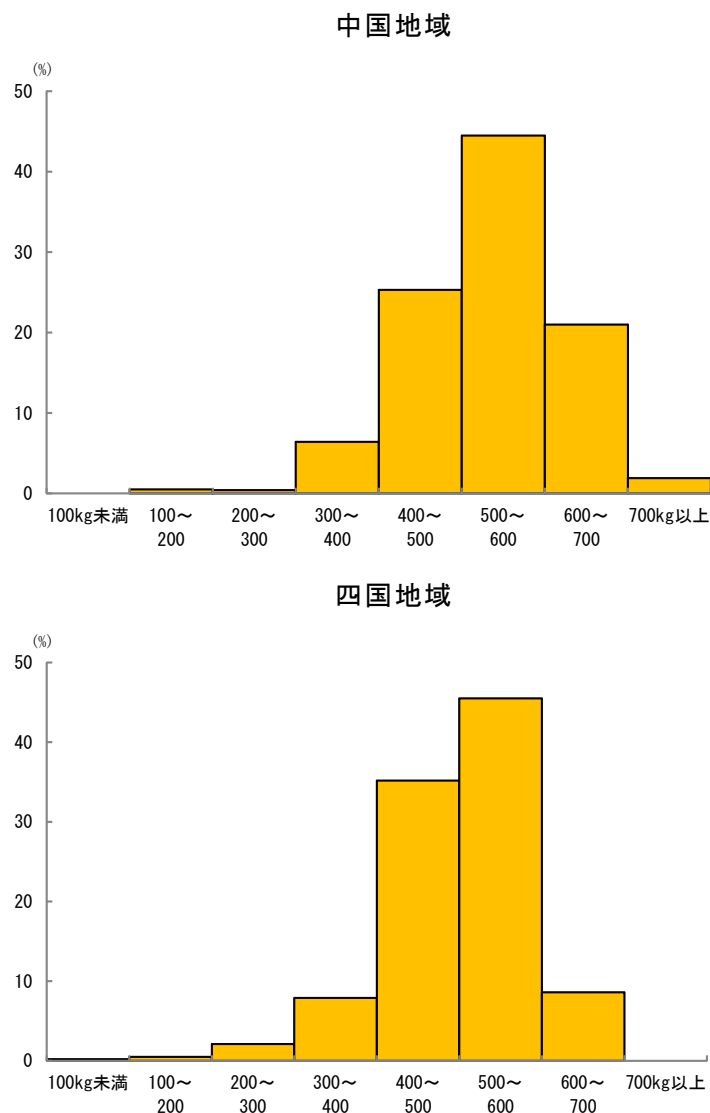
  

四国地域									
	計	100kg未満	100～ 200	200～ 300	300～ 400	400～ 500	500～ 600	600～ 700	700kg以上
筆数割合	100.0	0.2	0.5	2.1	7.9	35.2	45.5	8.6	—
前年値	100.0	0.2	0.2	2.6	16.0	40.5	35.3	5.2	—
対前年差	0.0	0.0	0.3	△ 0.5	△ 8.1	△ 5.3	10.2	3.4	—

注：1 10a 当たり玄米重は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量です。

2 10月15日現在までに刈取り・調製が終了した作況標本筆のデータにより取りまとめたものであり、次回公表において数値が変動することがあります。

図2 平成28年産水稻作況標本筆の10a 当たり玄米重の分布状況  
(中国地域・四国地域、10月15日現在)



◎ 累年データ

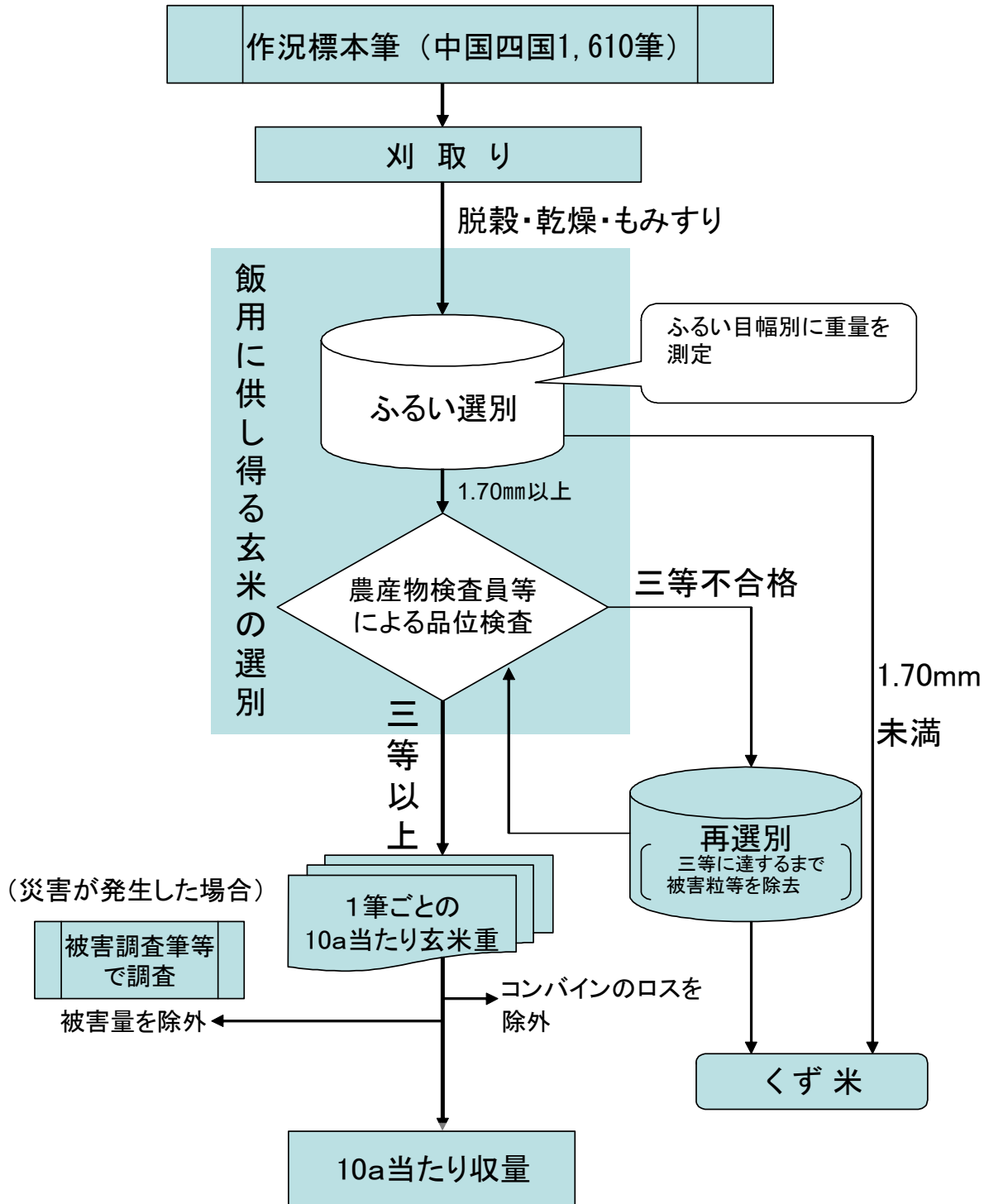
中国四国地域における水稻の年次別推移

区 分	作付面積 (青刈り面積を含む。)		10a当たり 収 量	収 穫 量 (子実用)	参 考	
	子 実 用				主 食 用 作 付 面 積	収 穫 量 (主 食 用)
	ha	ha	kg	t	ha	t
中国四国 平成18年産	180,600	180,100	479	863,100	…	…
19	178,300	177,700	492	873,600	…	…
20	176,200	175,500	524	920,000	174,900	916,800
21	175,900	174,900	502	878,700	174,300	875,000
22	177,800	175,200	494	866,100	174,200	860,600
23	176,100	171,300	507	869,000	169,100	857,600
24	175,500	170,600	510	870,400	168,500	859,200
25	175,200	171,600	502	860,600	168,600	845,100
26	172,900	167,900	484	813,100	163,200	789,600
27	169,700	160,300	491	786,700	155,700	764,400
28 (見込み)	167,300	156,900	515	808,400	152,600	787,200
中国地域 平成18年産	121,300	120,900	490	592,300	…	…
19	119,500	119,000	498	592,200	…	…
20	117,800	117,200	531	622,900	116,600	619,700
21	117,700	116,900	512	598,200	116,200	594,500
22	119,300	117,500	501	588,800	116,600	583,300
23	118,600	115,100	522	600,400	113,200	590,500
24	118,200	114,700	524	601,400	113,000	592,100
25	118,000	115,200	510	587,600	112,900	575,600
26	116,300	112,600	495	556,900	108,700	536,600
27	114,500	108,100	503	543,900	104,100	523,400
28 (見込み)	113,200	106,000	526	557,900	102,200	538,500
四国地域 平成18年産	59,300	59,200	457	270,800	…	…
19	58,800	58,700	479	281,400	…	…
20	58,400	58,300	510	297,100	58,300	297,100
21	58,200	58,100	483	280,500	58,000	280,500
22	58,400	57,700	481	277,300	57,600	277,300
23	57,500	56,200	478	268,600	55,900	267,100
24	57,200	55,800	482	269,000	55,500	267,100
25	57,200	56,400	484	273,000	55,700	269,500
26	56,500	55,300	463	256,200	54,500	253,000
27	55,200	52,100	466	242,800	51,700	241,000
28 (見込み)	54,100	50,900	492	250,500	50,500	248,700

注：「…」は事実不詳又は調査を欠くことを示しています。

## 収穫量調査の流れ

収穫量調査は、飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的として、作況標本筆（【参考 2】参照）ごとに一定面積の稲を刈り取り、農産物規格規程に定める三等の品位（整粒歩合45%）以上に相当するよう、ふるい目幅 1.70mm以上で選別を行い、その重さを計測しています（下図参照）。

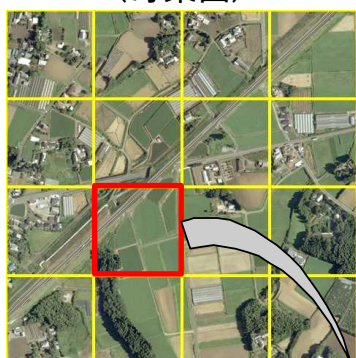




## 作況標本筆<sup>ふで</sup>とは

収穫量の実測調査の対象とした作況標本筆（1枚のほ場<sup>ふで</sup>を筆と呼ぶ。）は、各都道府県の水稲の状況が把握できるように、標本理論に基づいて以下のように各地で選定し（中国四国で1,610筆）調査しています。

全国の全ての土地  
（母集団）



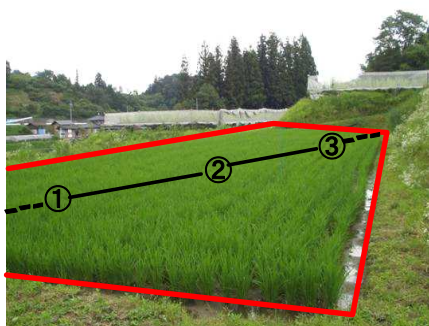
- 1 全国の全ての土地を200m四方（北海道は、400m四方）に区切って編成した単位区のうち、水田が含まれる単位区を調査母集団とし、その中から、無作為抽出法（人間の恣意を排したくじ引きのような選び方）により「標本単位区」を選んでいます。

標本単位区  
（200m四方の土地）



- 2 標本単位区の中から無作為に1枚の水田ほ場を選び、「作況標本筆」としています。

作況標本筆  
（全国で1万200筆）



- 3 各作況標本筆の対角線上の3か所（①、②、③）を実測調査箇所として、調査箇所ごとに1㎡（合計3㎡）分のサンプル採取（坪刈り）を行っています。



## 【調査の概要】

### 1 調査の目的

本調査は、作物統計調査の水稲作付面積調査及び水稲予想収穫量調査として実施し、水稲の作付面積、作柄状況・予想収穫量を明らかにすることにより、生産対策、需給調整、経営安定対策、技術指導等の農政推進のための資料とすることを目的としています。

### 2 調査の対象

調査は、全国の各都道府県を対象に調査を行っています。

### 3 中国四国地域における調査対象数

#### (1) 作付面積調査

標本単位区：5,573単位区 巡回・見積り：202市町村

#### (2) 予想収穫量調査

作況標本筆調査：1,610筆 作況基準筆調査：67筆 巡回・見積り：202市町村

	作付面積調査	予想収穫量調査		作付面積調査 及び 予想収穫量調査
		標本単位区	作況標本筆	作況基準筆
	単位区	筆	筆	市町村
鳥取	404	150	7	19
島根	502	195	9	19
岡山	892	240	8	27
広島	707	220	8	23
山口	713	185	8	19
徳島	507	150	6	24
香川	355	150	7	17
愛媛	776	150	7	20
高知	717	170	7	34

### 4 調査事項

水稲の作付面積、穂数の多少、もみ数の多少等の生育状況、登熟状況、被害状況及び耕種状況

### 5 調査期日

(1) 作付面積調査：平成28年7月15日現在

(2) 予想収穫量調査：平成28年10月15日現在

### 6 調査・集計方法

#### (1) 作付面積調査

職員又は統計調査員による標本単位区に対する実測調査により行いました。なお、職員による巡回・見積りにより実測調査結果を補完して取りまとめています。

#### (2) 予想収穫量調査

職員又は統計調査員による作況標本筆及び作況基準筆に対する実測調査により行いました。なお、職員又は統計調査員による巡回・見積りにより実測調査結果を補完して取りまとめています。

### 7 用語の解説

(1) 「青刈り」とは、子実の生産以前に刈り取られて飼肥料用などとして用いられるもの（WCS用稲、わら専用稲等を含む。）のほか、飼料用米、バイオ燃料用米を指します。

(2) 「穂数の多少」とは、1㎡当たりに出穂した穂の数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表しています。

(3) 「1穂当たりもみ数の多少」とは、1穂についている全てのもみの平均数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5

段階で表しています。

- (4) 「全もみ数の多少」とは、1㎡当たりの全てのもみ数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表しています。
- (5) 「登熟の良否」とは、登熟（開花、受精から成熟期までのもみの肥大、充実）が平年と比較して良いか悪いかを表しており、良、やや良、平年並み、やや不良、不良の5段階で表しています。
- (6) 前述の平年比較とは、過年次の作況標本筆結果から作成した各収量構成要素（1㎡当たり穂数等）の平年値との比較です。

多 少 ( 良 否 )	少ない (不良)	やや少ない (やや不良)	平年並み	やや多い (やや良)	多 い (良)
対平年比	94%以下	95～98%	99～101%	102～105%	106%以上

- (7) 「作況指数」とは、10a当たり平年収量に対する10a当たり予想収量の比率です。

なお、平成26年産以前の作況指数は1.70mmのふるい目幅で選別された玄米を基に算出していましたが、平成27年産以降の作況指数は、各全国農業地域に所在する農家等が使用しているふるい目幅について、その目幅が大きいものから数えて9割を占めるまでのふるいの目幅以上に選別された玄米を基に算出しています。

全国農業地域名	所属都道府県名	農家等使用目幅
北海道	北海道	1.85mm
東北	青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島	1.85mm
北陸	新潟、富山、石川、福井	1.85mm
関東・東海	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、山梨、長野	1.80mm
近畿	岐阜、静岡、愛知、三重	1.80mm
中国	滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山	1.80mm
四国	鳥取、島根、岡山、広島、山口	1.80mm
九州	徳島、香川、愛媛、高知	1.75mm
沖縄	福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島	1.80mm
	沖縄	1.75mm

- (8) 「10a当たり平年収量」とは、水稻の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況などを平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合いや作付変動等を考慮し、実収量のすう勢をもとに作成したその年に予想される10a当たり収量をいいます。

## 8 利用上の注意

- (1) 本調査（10月15日現在）は、収穫を終えた地域では刈取り実測により行いましたが、一部収穫を終えていない地域ではもみ数、登熟状況等を実測し、その後の登熟については気象が平年並みに推移するものとして推定する方法により行いました。したがって、今後の気象条件により作柄は変動することがあります。また、作付面積は概数値です。
- (2) 本調査についての確定値は、「平成28年産水稻の収穫量」として12月上旬に公表する予定としています。
- (3) 統計数値は、下記の方法で四捨五入しており、合計値と内訳の計が一致しない場合があります。

原 数		7桁以上 (100万)	6桁 (10万)	5桁 (万)	4桁 (1,000)	3桁以下 (100)
四捨五入する桁数（下から）		3桁	2桁		1桁	四捨五入しない
例	四捨五入する前（原数）	1,234,567	123,456	12,345	1,234	123
	四捨五入した後（統計数値）	1,235,000	123,500	12,300	1,230	123

## 【 ホームページ掲載案内 】

○各種農林水産統計調査結果は、中国四国農政局ホームページの「統計情報」でご覧いただけます。

【 <http://www.maff.go.jp/chushi/info/index.html> 】

○政府統計の総合窓口(e-Stat)では、各種統計データがご覧いただけます。

【 <http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/eStatTopPortal.do> 】

### 【お問合せ先】

◎本統計調査結果について

《中国四国農政局全体》

中国四国農政局 統計部 生産流通消費統計課 電話：(086)224-4511(代表)

内線2744(井上)または2741(岩崎)

《岡山県》統計部 統計調査チーム 電話：(086)235-0890

《鳥取県》鳥取県拠点 統計チーム 電話：(0857)22-3214

《島根県》島根県拠点 統計チーム 電話：(0852)26-7700

《広島県》広島県拠点 統計チーム 電話：(082)228-5847

《山口県》山口県拠点 統計チーム 電話：(083)922-5473

《徳島県》徳島県拠点 統計チーム 電話：(088)625-6990 内線351

《香川県》香川県拠点 統計チーム 電話：(087)831-8153

《愛媛県》愛媛県拠点 統計チーム 電話：(089)932-1178 内線465または461

《高知県》高知県拠点 統計チーム 電話：(088)824-7900

◎農林水産統計全般について

中国四国農政局 統計部 統計企画課

電話：086-224-4511(代表) 内線2726